

2019年度 第3四半期(2019年4月～12月)決算

(第3四半期決算補足説明資料)

株式会社キッツ

【注意事項】

本資料に記載されている当社及び連結子会社の計画、戦略及び業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、さまざまな要因により、見通し等と異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。



目 次

株式会社キッツ
2019年度第3四半期決算



1 2019年度第3四半期決算の概要

2 2019年度通期見通し

3 最近のトピックス



1 2019年度第3四半期決算の概要

2 2019年度通期見通し

3 最近のトピックス

2019年度第3四半期 業績

単位(百万円)

	2018年度 3Q実績	2019年度 3Q計画	2019年度 3Q実績	対前年		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	103,207	94,122	94,083	▲9,124	▲8.8%	▲38	▲0.0%
内、バルブ事業	82,746	75,936	75,792	▲6,954	▲8.4%	▲143	▲0.2%
内、伸銅品事業	18,027	15,824	15,912	▲2,114	▲11.7%	88	0.6%
営業利益 (率)	9,545 (9.2%)	4,707 (5.0%)	5,010 (5.3%)	▲4,534	▲47.5%	303	6.5%
内、バルブ事業	11,834	7,424	7,666	▲4,168	▲35.2%	241	3.3%
内、伸銅品事業	238	89	30	▲207	▲87.0%	▲58	▲65.4%
経常利益	9,609	4,507	4,842	▲4,767	▲49.6%	335	7.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,009	3,195	3,494	▲514	▲12.8%	298	9.4%
ドル: 対円	109.64	109.00	109.22				
ユーロ: 対円	130.61	120.00	122.36				
電気銅建値: 円/トン	753,000	660,000	689,000				

注) 売上高及び営業利益は、バルブ事業と伸銅品事業のみを表示しておりますが、合計はその他を含む連結合計であるため、一致していません。

バルブ事業 国内売上高(市場別)

前年同期比43億75百万円(8.3%)減の483億6百万円。建築設備向けは、市中在庫が依然高い水準だが、実需は回復傾向。工業用は食品、医薬品、化粧品等の設備投資もあり、堅調。新基幹システム稼働による混乱、納期遅延は上期でほぼ解消。水市場向けは、値上げ効果、東京都向けの回復で好調を維持。半導体製造装置向けは、第1四半期を底として、第2四半期以降徐々に回復しているが、本格的回復は来期以降と見込む。

単位(億円)

	2018年度 3Q	1Q	2Q	3Q	2019年度 3Q	対前年	
						増減額	増減率
国内 合計	526	151	166	166	483	▲44	▲8%
建築設備	222	65	68	70	203	▲19	▲9%
水関連	59	16	21	24	61	2	3%
半導体関連	69	12	16	16	45	▲24	▲35%
機械装置関連	56	18	18	17	54	▲2	▲4%
石油精製・石油化学	51	17	17	16	50	▲1	▲2%
一般化学	21	7	7	7	21	—	—
食品・製紙	17	6	6	6	17	—	—
ガス・電力	18	5	6	5	16	▲2	▲11%
大型プロジェクト物件	13	6	5	5	16	3	23%

注) 1 各市場で採用されるバルブの材質、形状の変化やトレンドを考慮し、2018年度より各市場に集計する製品群の一部を見直ししております。

注) 2 億円単位で表示しているため、累計・合計が一致しない場合があります。

バルブ事業 海外売上高(エリア別)

前年同期比25億79百万円(8.6%)減の274億85百万円。半導体製造装置向けは、低迷が続くものの、韓国向けの物件により微増。アセアン・韓国他は、韓国Cephasの新規連結効果はあったが、米中貿易摩擦の影響もあり、主力のタイ・インドネシアが低迷。中国は、経済減速により建築設備向けが失速。データセンター向けは引き続き需要が旺盛。中東は、大型プロジェクトがなくなり、反動減。北米は、Oil&Gas向け投資が回復せず、大手代理店の在庫調整が継続。ブラジルは、値上げ効果もあり好調。欧州は、代理店の在庫発注が継続し、好調を維持。

単位(億円)

	2018年度 3Q	1Q	2Q	3Q	2019年度 3Q	対前年	
						増減額	増減率
海外 合計	301	96	85	94	275	▲26	▲9%
アセアン・韓国他	98	37	31	35	103	5	5%
(内、半導体向け)	(17)	(3)	(3)	(5)	(12)	▲5	▲29%
中国	60	16	16	20	52	▲8	▲13%
(内、半導体向け)	(19)	(3)	(3)	(3)	(10)	▲9	▲47%
中東	34	2	2	2	6	▲28	▲82%
アジア計	191	55	49	57	161	▲30	▲16%
米州(北米、中南米)	83	28	25	26	80	▲3	▲4%
欧州・その他	27	13	11	10	34	7	26%

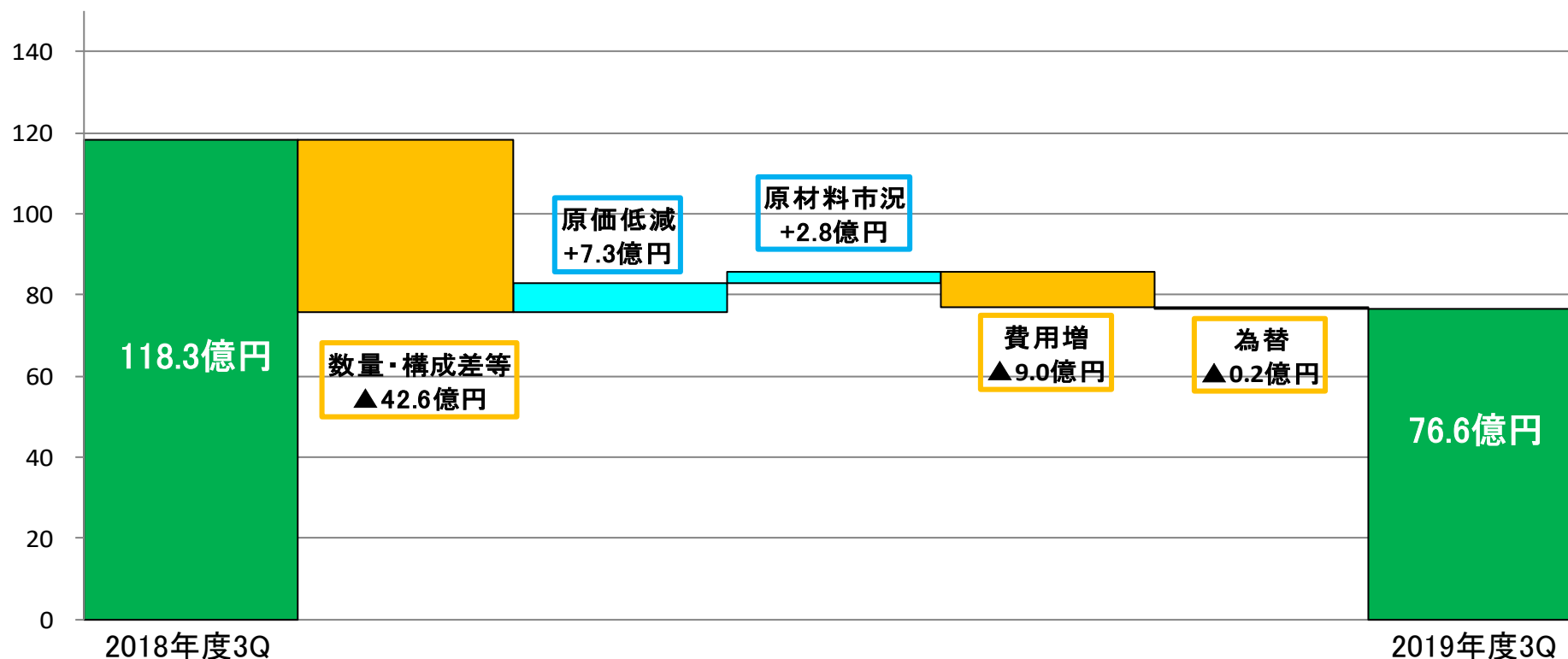
注) 億円単位で表示しているため、累計・合計が一致しない場合があります。

バルブ事業 営業利益増減要因

単位(百万円)

	2018年度 3Q実績	2019年度 3Q計画	2019年度 3Q実績	対前年		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	82,746	75,936	75,792	▲6,954	▲8.4%	▲143	▲0.2%
営業利益	11,834	7,424	7,666	▲4,168	▲35.2%	241	3.3%

(億円)



伸銅品事業の概要

■売上高について

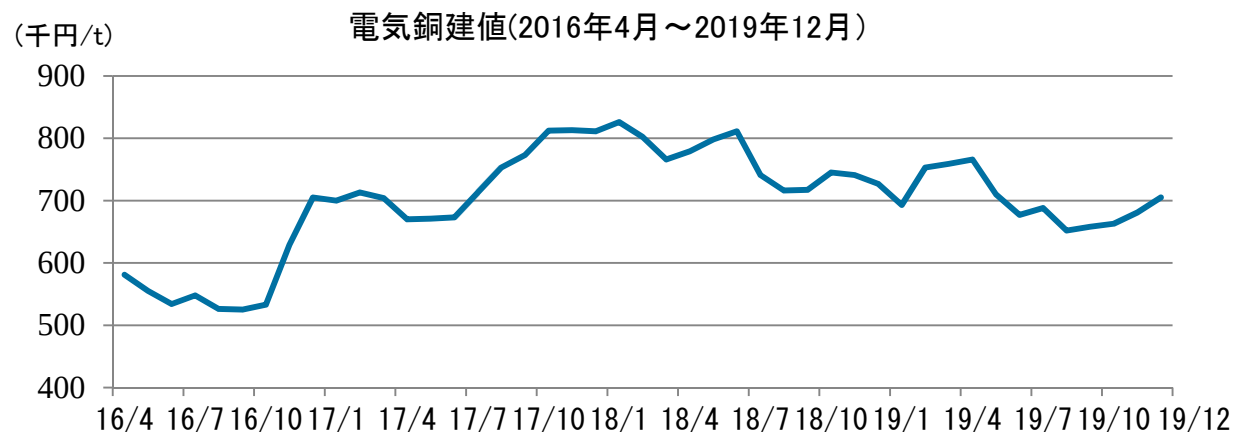
売価に影響を与える銅相場は、第3四半期はやや上昇したが、前期比では低水準。販売量の減少もあり、売上高は、前年同期比21億14百万円(11.7%)減の159億12百万円。

■営業利益について

原材料相場変動の影響に加え、新工場での量産が10月から開始し、減価償却費及び製造経費が増加した。旧設備との並行稼働の影響もあり、営業利益は前年同期比2億7百万円(87.0%)減の30百万円。

単位(百万円)

	2018年度 3Q実績	2019年度 3Q計画	2019年度 3Q実績	対前年		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	18,027	15,824	15,912	▲2,114	▲11.7%	88	0.6%
営業利益	238	89	30	▲207	▲87.0%	▲58	▲65.4%
電気銅建値:円/トン	753,000	660,000	689,000				



黄銅棒とその加工品

その他の概要

■売上高について

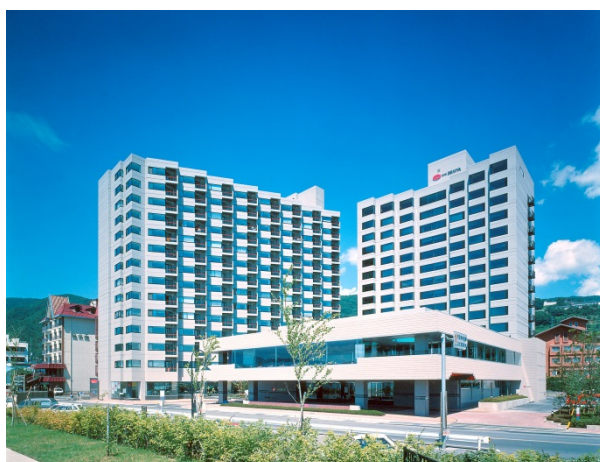
売上高は、団体宿泊客の減少に加え、10月の台風の影響によるキャンセルの増加もあり、前年同期比55百万円(2.3%)減の23億78百万円。

■営業利益について

営業利益は、前年同期比69百万円(47.1%)減の78百万円。

単位(百万円)

	2018年度 3Q実績	2019年度 3Q計画	2019年度 3Q実績	対前年		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	2,433	2,362	2,378	▲55	▲2.3%	16	0.7%
営業利益	147	65	78	▲69	▲47.1%	13	20.0%



長野県諏訪市のホテル紅や

連結営業外・特別損益の状況

単位(百万円)

	2018年度 3Q実績	2019年度 3Q実績	増減額	主な増減内訳
営業利益	9,545	5,010	▲4,534	
■営業外収益	681	496	▲184	
■営業外費用	616	665	48	
経常利益	9,609	4,842	▲4,767	
■特別利益	7	371	363	投資有価証券売却益(0→357)
■特別損失	2,579	92	▲2,486	2018年度はCephasの減損損失計上(2,485)
税金等調整前当期純利益	7,038	5,120	▲1,917	
法人税等	2,939	1,581	▲1,358	
当期純利益	4,098	3,539	▲559	
非支配株主に帰属する当期純利益	89	44	▲44	
親会社株主に帰属する当期純利益	4,009	3,494	▲514	

バランスシートの状況

会計基準の変更（IFRS第16号）（海外グループ会社のリース取引について、リース資産とリース債務をB/Sに計上）、設備投資により有形固定資産が増加した他、マレーシアUnimech社の株式取得により投資有価証券が増加したが、現金及び預金の減少や売上債権の減少により資産合計は減少。

■流動資産：現金及び預金の減少 25億95百万円

■固定資産：有形固定資産の増加 22億93百万円 無形固定資産の減少 14億円
投資有価証券の増加 16億32百万円

■有利子負債残高は、365億68百万円（純有利子負債 255億3百万円）、自己資本比率57.3%（19/3末 57.4%）

単位(百万円)

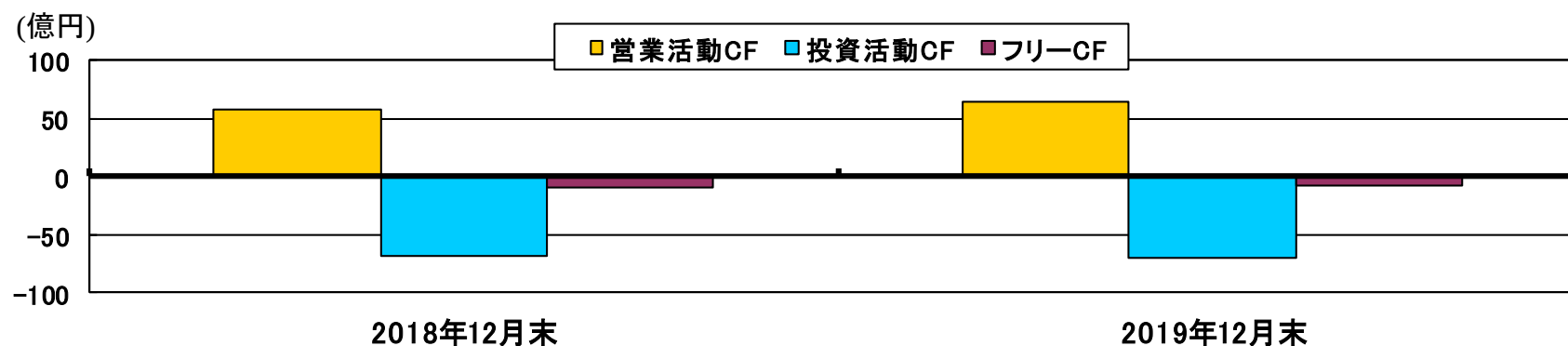
資産の部	2019年 3月末	2019年 12月末	増減額	負債の部	2019年 3月末	2019年 12月末	増減額
流動資産	71,226	66,441	▲4,784	流動負債	22,227	20,048	▲2,179
固定資産	60,430	62,832	2,401	固定負債	32,600	33,847	1,246
有形固定資産	41,677	43,970	2,293	負債合計	54,827	53,895	▲932
無形固定資産	9,420	8,019	▲1,400	純資産合計	76,829	75,379	▲1,450
投資等	9,332	10,841	1,508	負債・純資産 合計	131,657	129,274	▲2,382
資産合計	131,657	129,274	▲2,382				

キャッシュ・フローの状況

- 営業活動CF: 税金等調整前四半期純利益51億20百万円、減価償却費47億98百万円。法人税等の支払額30億45百万円、賞与引当金の減少12億36百万円はあったが、63億77百万円の資金の増加。
- 投資活動CF: 有形固定資産の取得による支出56億60百万円、投資有価証券(マレーシアUnimech社等)の取得による支出17億77百万円により、70億63百万円の資金の減少。
- 財務活動CF: 長短期借入金の調達及び返済はあったが、配当金の支払、自己株式の取得等により、16億28百万円の資金の減少。

単位(百万円)

	2018年12月末	2019年12月末	増減額	増減率
営業活動CF	5,850	6,377	526	9.0%
投資活動CF	▲6,785	▲7,063	▲278	—
フリーCF	▲934	▲685	248	—
財務活動CF	▲8,218	▲1,628	6,590	—
現金等期末残高	12,839	10,312	▲2,527	▲19.7%



2019年度第3四半期の主な経営指標

単位(百万円)

	連結	
	2018年度 3Q実績	2019年度 3Q実績
売上高	103,207	94,083
営業利益	9,545	5,010
経常利益	9,609	4,842
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,009	3,494
海外売上高比率	29.7%	29.8%
有利子負債	33,907	36,568
自己資本比率	57.1%	57.3%
BPS	783.68円	800.02円
EPS	41.58円	37.49円



1 2019年度第3四半期決算の概要

2 2019年度通期見通し

3 最近のトピックス

2019年度 通期見通し

単位(百万円)

	2018年度			2019年度			
	1Q～2Q 上期実績	3Q～4Q 下期実績	通期 実績	1Q～2Q (上期実績)	3Q 実績	4Q 見通し	通期見通し
売上高	67,781	68,856	136,637	62,199	31,884	29,916	124,000
営業利益 (率)	5,813	5,900	11,713 (8.6%)	2,816	2,194	1,489	6,500 (5.2%)
経常利益 (率)	5,788	6,094	11,883 (8.7%)	2,733	2,108	1,457	6,300 (5.1%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益(率)	3,926	1,698	5,625 (4.1%)	2,033	1,461	805	4,300 (3.5%)
ROE	—	—	7.4%	—			5.7%
EPS	—	—	58.50円	—			46.20円
ドル:対円	108.52		110.37	109.98			109.00
ユーロ:対円	130.66		130.00	124.07			120.00
電気銅建値:円/トン	760,000		748,000	692,000			660,000

セグメント別 2019年度 通期見通し

単位(百万円)

売上高	2018年度			2019年度			
	1Q～2Q 上期実績	3Q～4Q 下期実績	通期 実績	1Q～2Q 上期実績	3Q 実績	4Q 見通し	通期見通し
バルブ事業	53,844	56,124	109,969	49,760	26,031	24,407	100,200
伸銅品事業	12,237	11,405	23,643	10,737	5,175	4,987	20,900
その他	1,698	1,326	3,025	1,701	677	521	2,900
計	67,781	68,856	136,637	62,199	31,884	29,916	124,000

営業利益	2018年度			2019年度			
	1Q～2Q 上期実績	3Q～4Q 下期実績	通期 実績	1Q～2Q 上期実績	3Q 実績	4Q 見通し	通期見通し
バルブ事業	7,306	7,632	14,938	4,524	3,141	2,533	10,200
伸銅品事業	191	95	287	72	▲41	169	200
その他	120	▲30	90	91	▲13	▲78	0
調整額	▲1,804	▲1,797	▲3,602	▲1,872	▲892	▲1,135	▲3,900
計	5,813	5,900	11,713	2,816	2,194	1,489	6,500

2019年度の主な経営指標

単位(百万円)

	連結	
	2018年度 実績	2019年度 見通し
売上高	136,637	124,000
営業利益	11,713	6,500
経常利益	11,883	6,300
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,625	4,300
海外売上高比率	30.3%	30.0%
有利子負債	33,457	36,500
ROE	7.4%	5.7%
自己資本比率	57.4%	57.0%
BPS	793.74円	818.17円
EPS	58.50円	46.20円



1 2019年度第3四半期決算の概要

2 2019年度通期見通し

3 最近のトピックス

キッツメタルワークス 三菱伸銅株式会社と 「エコブラス」のライセンス契約を締結

2019年11月13日、キッツメタルワークス（以下、KMW）は、三菱伸銅株式会社（以下、三菱伸銅）と「エコブラス」シリーズのライセンス契約を締結した。

三菱伸銅の「エコブラス」シリーズは、環境負荷物質である鉛を添加することなく良好な切削性を実現した鉛フリー快削黄銅棒。

近年、世界的に環境負荷物質に対する規制が進められており、鉛フリー黄銅棒銅合金の需要が急速に拡大することが見込まれる。

KMWでは従来より鉛フリー黄銅棒「キーパロイ」シリーズを販売していたが、これに加え、日本工業規格（JIS）、欧州EN規格及び米国ASTM規格に登録されているグローバル材料である「エコブラス」シリーズの生産・販売を行うことを決定した。大規模な設備更新により、「エコブラス」シリーズを量産する体制はすでに整っており、2020年度内の販売開始を目指す。



ELV指令・RoHS指令に対応

ECOBRESS[®] エコブラス[®]

高機能金属展にキッツグループとして初出展

2019年12月4～6日に幕張メッセで開催された高機能金属展にキッツとキッツメタルワークス(以下、KMW)が共同で、初出展した。

高機能金属展は、アルミ、銅、チタン、マグネシウム、貴金属、鉄鋼をはじめとした金属材料や、加工機械、分析・検査機器、鋼材流通など、高機能金属に関するあらゆる技術が出展する展示会。

今回、キッツグループとして初めて出展し、オリジナル材料であるKSN-1(耐濃硝酸向けステンレス鋼鋳物)、SDPV-K2(ハイパー2相ステンレス鋼鋳物)、SASV-Z2(スーパーオーステナイトステンレス鋼鋳物)などの特材と長坂工場における鋳物の製造工程や外販事業について、KMWは鉛フリー黄銅棒のエコブラス、キーパロイや製造工程を中心に展示した。

出展ブースは非常に盛況であり、特に鋳物の外販事業について来場者の関心が高く、展示物では、キッツとKMW合作のチェス盤が大変人気であった。



キッツエスシーティー 米国Ichor社と集積液体供給システムの国内総代理店契約を締結

株式会社キッツエスシーティーは、米国Ichor Systems Inc.(以下、Ichor社)の集積液体供給システム(Integrated Manifold System: 以下IMS)の日本国内における総代理店契約を締結した。

IMSは、Ichor社が半導体製造プロセス用の集積ガス供給システムで開発した業界標準のコンポーネント接続技術を基盤とし、液体プロセス向けに新たに特許を取得した集積液体供給システム。

コンポーネント間を繋ぐチューブが不要であり、フットプリントを大幅に縮小することが可能。また、コンパクト化することにより薬液の流路長も短くなることから、高純度薬液の品質維持にも効果がある。

コンポーネントは、標準化された寸法で製作されており、レイアウト設計も容易なシステムとなっている。

ガス系の集積パネルと同じく、WET系(液体プロセス)においても装置のコンパクト化にニーズが高まっており、きめ細かなサービスを提供し売上の拡大を目指す。



IMS製品事例



<Ichor社の概要>

会社名	Ichor Systems Inc.
本社所在地	米国カリフォルニア州フリーモント
設立	1996年
資本金	228.4百万ドル

キッツスマート養殖の取り組み

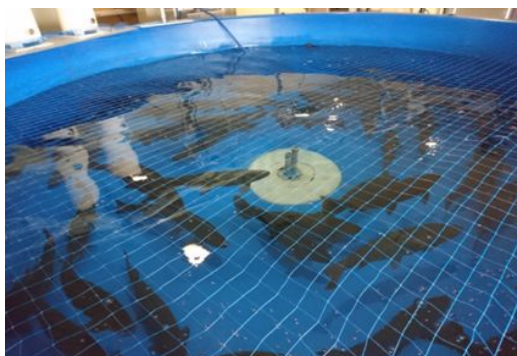
キッツスマート養殖の取り組みが、1月29日、テレビ東京の経済ニュース番組「モーニングサテライト（モーサテ）」の特集コーナー「大浜見聞録」で取り上げられた。

2019年夏より、茅野工場にて、キッツスマート養殖プラントによる「信州サーモン」*の飼育を行い、グループのホテル紅やに食材として提供する取り組みを開始した。

陸上養殖で飼育された、新鮮で安心・安全な魚を地域の資源として活用し、地域の活性化につなげるという、6次産業化*のビジネスモデルの実現可能性を探る活動。茅野工場から諏訪湖畔に位置するホテル紅やまでは、車で約30分という距離であり、魚を新鮮な状態で運搬することが可能。ホテルに宿泊するお客様に新鮮な「信州サーモン」を使った料理を提供し、好評をいただいている。

* 信州サーモン：長野県水産試験場が育成したマス類の新しい養殖品種。銀色で肉厚なきめ細かい肉質が特徴。

* 6次産業化：1次産業としての農林漁業と、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取り組み。





ご清聴ありがとうございました。